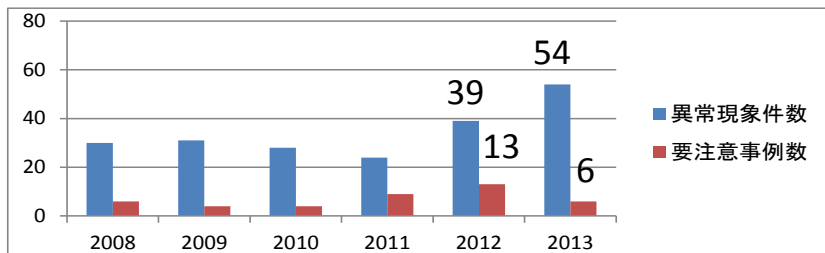


異常現象の発生状況

- 2013年異常現象発生数は、15件増加し54件となった
- 要注意事例は13件から6件へと減少した
- 高圧ガス保安法のA級、B級事故の発生は無かった
- 事象として、オフサイト配管・漏洩が多いという傾向に大きな変化は無かった → **今後も継続的な重点項目**



設備のリスクに応じた点検・補修計画の作成、異常現象等の点検計画への反映等を行っているが、長大な配管検査には年数が掛かることから、効果が表れるにはタイムラグが存在する。

異常現象増加の要因は特定できていないが、各社は大事故防止のために、巡回パトロールの強化、点検計画の前倒し・点検個所の拡充による早期発見に努めている。

産業保安に関する取組み

- 各社の取組み
 - 経営トップの安全に関するメッセージの発信、ホームページ・CSR報告書等での公表
 - 定期的な現場との意見交換による安全理念の一体化活動
 - 重大事故ゼロ等の具体的目標の設定
 - 設備のリスクに応じた設備管理計画
 - 安全活動の進捗評価・次期計画への反映
 - リスクコミュニケーションの実施

- 石油連盟の取組み
 - 事故情報水平展開の拡充としてQ&Aシートの導入による情報の深掘り
 - 安全活動情報交換会開催
 - 地震、防災に関する講演会開催
 - 地盤・基礎補強工法説明会開催
 - 各種講演会、参考資料の案内・連絡

- 自然災害への取組み
 - 国の補助制度を活用した大規模地震時における製油所の安全停止、供給機能の確保、早期復旧対策を実施中
 - 既存LPG球形タンクブレース補強、高圧ガス重要施設の耐震補強

- 産業保安に関する自主行動計画の見直し
 - 異常現象の中に大事故に繋がる潜在リスクを有する可能性があることを認識し、リソースを効果的に投入して自主行動計画を実施
 - 三省合同会議報告書の指摘事項や各社の活動事例を取り込み自主行動計画に位置付け